



和歌山市の中谷久次さんのお宅にお邪魔しました。中谷さんはご家族で海産物商を営んでおられます。みなさんお元気で和やかで素敵なご家族です。中谷家のお仏壇の前にはいつお参りしても湯のみがあります。それを不思議に思ったずねたことがありました。それは戦争中に火傷を負って亡くなった久次さんの妹、のり子ちゃんへの思いだと教えていただきました。久次さんの味わい深い和歌山弁そのままにお届けします。

空襲の記憶

母がおっぱどう着でのり子ちゃんを背負って、燃えてる中もう、爆弾落ちる中逃げもて国道まで出たんですよ。そこらじゅう火の海やったよって。ほいて、さあ紀ノ川の方行こか、お城の方行こかて迷たんですよ。でもみなが行く方へやっぱり逃げるわね。その行ったところが経済センターのここ。今、汀公園になってる、あそこへみな逃げたんです。防空頭巾被ってみな拜んでましたよ。「南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経」「南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏」てみな拜んでました。

そこへ今度は竜巻がおきた。あそこ

で竜巻におうて、ほいで、母もころころころころ飛ばされて、その時に、背負うちゃあったのり子ちゃんも火傷してね。ほいて私ら土管の中に逃げ込んだんやけど、くるくるくるって回されて、火傷して、服らもうぶすぶすになったんですわ。僕は小学校3年生か4年生くらいで、その時は竜巻ちゅうことは知らん。なんちゅうか、くわって巻きもてこっちへ来るんですよ、ぐってよ。そして竜巻が去ったらもう死んだ人いっぱい。

B29もなにして夜が明けて来てしたら、みな呼び合いしてるんです、名前



和歌山城近くのみぎわ公園にある供養塔。この場所で竜巻がありました。

を。「おかあちゃんおかあちゃん」てみな呼び合いしてね。ばらばらになってもてるんですよ。死んだ人もいっぱいあるしね。

アスファルトら熱て歩けやんのですよ。死んだ人の靴とらんことに、自分の靴なかったら歩かれへんくらいやからね。そんなにして帰って来たら、あかつき部隊ていうのが、助けに来てくれたんです。あかつき部隊、24部隊ちゅうのが今の小松原のここにあつて。知らないですかね。

そのあかつき部隊ちゅう兵隊さんが、鷲の森のここに駐屯やってて、ほいて今の商工会議所のここへみな、生きてる人だけ担架で運んで机の上へ寝かされたんですな。ほいて「水を飲むな」と、お医者というか白衣着たような人1人だけいてましたよ。別に処置てなんにもやってくれへんのやけど、「水飲むなー水飲むなー」火傷のときに水飲んだらいかんよって。でも僕バ

ケツのべちゃげたようなもんへ水持って来たんですよ。泥水ですけども、ちよびっとだけ飲んだけども。その時はその、のり子ちゃん、おっぱしちやあったんかどうしちやあったんか忘れてたけども、もうその時亡くなつてたんでしょなあ。

のり子ちゃんきれいなお水飲みたかったやろなあって思いが今でもあるんで、お仏壇に湯のみ置いてお供えしてるんです。

過去帳に記されたのり子さんのお名前。



そこで何時間かいてて。ほいで電車のここ歩いて、和歌山駅の田中口に親戚の里があるんで、そこまでいっぺ行こかちゅうて。ほいて、今の保健所のここまで歩いてたんですけどね。その時は電車はもう市電は燃えてるしね、人はまだまあ燻って両脇で燃えてるし。でまあ親戚の家へ着いてのり子ちゃん下ろしたら亡くなつてて。のり子ちゃんね、油がなにしてもうて、焦げ茶色みたいなもつと濃い。バナナ